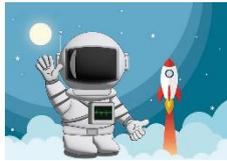


太陽フレア

いきなりですが、皆さんは日常生活の中で「宇宙」を意識することはありますか？



近頃は宇宙開発を積極的に行っている中国のニュースや民間宇宙ビジネスという言葉に触れることが多くなりました。民間人が宇宙旅行出来る時代になったとも報じられています。

(「宇宙旅行出来る民間人」に、たぶん「庶民」は含まれていないと思います。知らんけど)

宇宙と言えば→アポロ、スペースシャトル→

→イトカリ、リュウグウ、はやぶサ、佃製作所→

→宇宙人、E.T.、エイリアン、UFO、地球侵略→



→スター・ウォーズ、ヨーダ、ガンダム、クラーク・ケント→

→ミスター・スポック、トミー・リー・ジョーンズ、スーパーサイヤ人、カメハメ波、、、



連想するのはこの程度の単語だけで、結局は見事にアニメや映画の世界です。

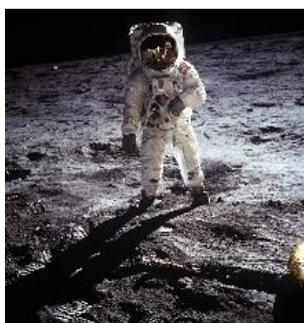
(お恥ずかしいですが、根っからの「テレビっ子」でした。  アッ、今では死語ですね。)

それでも、小学校の林間学校で、教科書でしか知らなかった北斗七星を初めて見た時の事はよく覚えています。大きくてとても美しく、その存在感に圧倒され同時に感動してしまいました。



今も、目の前の事でイッパイイッパイなのか、気が付くと満月だったとか、何気なく見上げたら星がきれいだったとしても「宇宙」という言葉には繋がらなく、「夜空」としか思いません。

ですから、改めて「宇宙」と言うと、とても大げさで全くリアリティーを感じません。



しかし、これからは地球資源の枯渇とともに、宇宙に多く存在する資源をいかにして利用するのが課題とされています。例えば、月の表面にはトリウム 3 という核融合発電に欠かせない燃料が世界電力消費量の約 1,000 年分堆積していると言われています。

(たくさん採掘したら月は小さく軽くなり、運びこまれた地球は重くなるのでしょうか？なんかまた人間が自然のバランスを破壊してしまうような気がしますし、地球上の領土問題と同様に宇宙でも覇権争いが行われそうですね。)



宇宙旅行や宇宙開発など宇宙産業プロジェクトが進み、いよいよ宇宙航海時代の始まりなのかも知れません。一方では、ロシアの国営宇宙企業ロスコスモスが国際協力の象徴的な存在である国際宇宙ステーション(ISS)の運営から早



ければ2年後に撤退するとしています。(2022年7月発表)

そんな中、総務省の有識者会議が「宇宙天気の警報基準に関するWG報告：最悪のシナリオ」を2022年4月26日に発表しました。所管は総務省国際戦略局宇宙通信政策課です。

ここで問題になっているのは「太陽フレア」です。

太陽には地球型惑星や衛星などと異なり、はっきりした表面が存在しません。太陽の自転周期は赤道付近では約25日ですが緯度が高くなるにつれて長くなり、極付近では約30日となっています。これは太陽が流体であるためです。太陽の活動は約11年周期で極大と極小を繰り返していて、極大期には黒点数が最大となり、太陽の南北両極の磁場(S極、N極)がほぼ同時に反転するそうです。

(って、マジですか!?)

「太陽フレア」と呼ばれる太陽表面の巨大な爆発現象は、太陽の表面に見える黒点周辺で起こる大規模な爆発で、大きいものでは吹き上がる炎が地球の大きさを超えるようなケースもあります。これは黒点の磁場が変化する時のエネルギーが周囲のガスに伝わって発生すると考えられていて、爆発に伴い電波やX線のほか電子や陽子などの電気をおびた素粒子が飛び出し、そうしたエネルギーが太陽嵐となって放出されます。

(子供の頃、歌のとおりは無邪気に手をかざしていたこともありましたが、

お日さまってこんなにややこしいことになっていたのですねえ、知りませんでした。

さらに詳しいことはJAXAや国立天文台NAOJにお任せします。)

JAXA: <https://www.jaxa.jp/>

NAOJ: <https://www.nao.ac.jp/>

「ひので」が太陽極域磁場の反転をとらえた: <https://www.astroarts.co.jp/>

special thanks to pictogram2.com & pixabay.com



(つづきます)

